

一般質問…ここが論点

3月定例会

3月市議会定例会中、4日、5日、6日の3日間で、3人の議員が会派を代表して質問し、9人の議員が個人質問を行いました。その中から主なものを要約して掲載します。

詳しい内容をお知りになりたい方は、3月定例会会議録を市立図書館などでご覧いただくか、市議会ホームページの会議録検索システムをご利用ください。

発行・掲載はいずれも6月上旬の予定です。

また、ユー 스트リーム ライブ 中継 と録画放映も実施していますのでご覧ください。

予算大綱説明を行う稲葉市長



蒲郡自由クラブ
代表 伴 捷文

堅実な行財政運営
について

問 市長は、マニフェストで市債残高10%削減をうたっているが、今後どのように対応していくのか。

答 決算額での実績は平成23年度末の臨時財政対策債を除く残高は約386億円で、22年度末と比較すると、5%削減している。

25年度は、増加要因もあり、難しい目標数値だが、返済額より多くは借りない

という原則をもとに、市債の発行額をコントロールしていきたい。

こころ豊かな教育の
充実について

問 教職員の心得として、新しく赴任した教員の教育について、どのように行っているのか。

答 法律で定められた研修年を通して行われている。

24年度は、校外研修として教員の心構え、社会的奉仕体験活動、集団宿泊体験などを行い、実践力を高める研修を20回、そして、校内研修として学級経営や授業づくりなど拠点校指導教員などから指導を受ける研修を150時間行っている。

また、市教育委員会による学校訪問でも、新任教員に対して、面接や指導を行っている。

定住促進事業について

問 人口増加は、地域の経済、産業の活性化や個

人・法人市民税納税増加による財源確保につながる。定住促進事業について、現在の考えを伺う。

答 人口問題への取り組み認識している。この課題を解決するため、専門的に取り組むプロジェクトチームを立ち上げ、調査研究を行ってきた。

その結果、市が行うべき施策として「住宅建設、土地利用にかかわる各種規制の緩和」、「蒲郡に住むことの魅力を市内外へ情報発信するプロモーション活動の推進」、「働く場を確保



新設された市役所企業立地推進課

するための企業誘致や新産業の創出」という3つの柱が必要であると考えている。

新産業創出事業
について

問 ヘルスケア計画策定事業について、現在の考えを伺う。

答 市民の健康に対する調査や、市内外の企業との意見交換、ヘルスケア分野の専門家などから情報収集を行い、蒲郡のヘルスケアの目指すべき姿を考えてきた。

新年度は、ヘルスケア計画を検討する産・学・官・民による協議会を立ち上げ、課題の検討を進め、具体的なヘルスケアのまちを描いていきたいと考えている。

問 アワビの陸上養殖の現状と今後について伺う。

答 現状は、がまごおり産学官ネットワーク会議を中心に、三谷水産高校、愛知県水産課、愛知県水産試験場との協力体制を構築してきた。

今後の計画は、25年秋以降に養殖設備を整備し、そ